

「子どものお守りに」

「昨日、ラーメン屋へ行ったんだ。今までで一番美味しかった！」
いつも行く「ラーメン屋」なのに、この日がなぜ、一番美味しかったのでしょうか。
それには理由があり、最近まで、親は他の兄弟に手がかり、この子との時間を作れなかったのです。この日が、やっと大好きな親を独り占めできた日でした。

どの家庭にもさまざまな事情があり、親の仕事が忙しかったり、兄弟の世話に手がかかるなど、慌ただしく過ごすこともあるでしょう。そのような毎日の中で子どもは、親を気遣い、心配かけてはいけないと思い、「ねえ」や「あのさあ」という一言が言えずに、表面では「手のかからないいい子」として過ごしているのかもしれません。

でも心の中では「どうせ自分のことなんてみてくれない」「どうせわかってくれない」という諦めの気持ちがあったり、また同時に「でも一緒にいたい」「私をみてほしい」などの思いも交錯し、「自分でもどうしたいのかわからない」混乱状態に陥ることもあります。

そして、身体の不調となり、朝起きられなかったり、気持ちが落ち込んでしまい、そのことが要因で不登校になる例もあります。

そんな時はちょっと手を止めて、子どものほうを見てあげてください。

「私に気づいて！」とSOSを必死に送っているかもしれません。

そして、ハグしてもいい。一緒にドライブでも、買い物もいい。

ご飯を食べて「美味しいね」とニコッとするだけでもいい。

「親が自分を見てくれている」

これは、子どもにとって、最高のお守りになるはずです。

「そういえば、こんなこと」

長期休み前の恒例行事「レクリエーション大会」
今回はカードゲームの他に「縄跳び」と「けん玉」が追加。
ルールは「1分間に何回できるか」

地道に回数を重ねるもよし。

回数が倍になる、二重跳びをしてもよし。

けん玉の「けん先」に挑戦もよし。

この1分間に作戦と性格が現れる！

